

平成19年度大分大学（旦野原キャンパス）技術職員研修報告

技術職員研修WG

平成19年度大分大学技術職員研修が9月20・21日両日工学部109号教室とダイハツ九州（株）で行われました。この研修は、大分大学（旦野原キャンパス）に勤務する教室系技術職員を対象に、その職務遂行に必要な基本的、一般的知識と新たな専門的知識を修得させるとともに、大分大学の技術職員としての資質の向上を図ることを目的としています。今回の技術職員研修対象者は40名で、出席者は37名でした。また、施設見学参加者は31名でした。

1日目の研修は、江崎技術部長のあいさつの後、栗城事務局長から「大分大学の現状」について講話を受け、つづいて、工学部前田教授の講義「ラケットスポーツにおけるグリップの問題」と、教育福祉科学部川野教授の講義「誰も知らない水のはなしーなぜ、今水サミット？ー」を受けました。

その後、鹿児島大学で開催された九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修Bの物理・化学、土木・建築に参加した2名の技術職員から研修会報告が行われ、引きつづき奨励研究採択者や機器分析技術研究会発表者による技術発表が行われました。

2日目の研修では、総務企画課副課長より「大学評価と職員評価」についての人事講話と、ダイハツ九州（株）大分（中津）工場に出向き最新自動車組み立てラインの施設見学が行われました。また、夕方には大学生協2階に場所を移し学長・理事長をはじめ技術職員研修の講師を務めていただいた先生方や事務部の方々も参加され和やかな雰囲気の中での懇談会が行われました。

今後の課題として、技術発表のやり方、非常勤職員・施設見学等の不参加者・修了証書の交付者の取扱いなどをどうするか考える必要があると思います。



技術部長あいさつ



事務局長の講話



講義風景



技術発表風景